

地盤工学におけるリスクマネジメントに関する事例研究委員会
第 6 回委員会議事録 (案)

場 所 : 地盤工学会会議室 (地下 1 階)
日 時 : 2009 年 1 月 28 日 9:30~11:30
出 席 者 : 日下部委員長, 伊藤幹事, 正垣委員, 西田委員, 小嶋委員, 大日方委員, 上野委員, 岩崎委員, 笹倉委員, 中山委員, 外狩委員, 岸田オブザーバー
欠 席 者 : 大久保幹事, 蔵田委員, 萩原委員, 石井委員, 大里委員, 薦田委員, 伊奈委員, 稲垣オブザーバー, 大和オブザーバー

1. 委員会審議事項

1) 前回議事録の確認 (伊藤幹事)

承認された

2) WG 一覧表

確認いただいた。岸田オブザーバーは契約 WG となった。

3) WG 活動報告

【地盤リスクの事例調査 WG (文献+地盤リスク+マネジメント合同 WG)】

- ・ 資料 6-4 のようなデータベースシートを作成し, 分類分けを行なっている。
- ・ 1 月 15 日に第 1 回 WG を実施した (資料 6-5)。その中で, 以下の点が問題となった。
 - 地盤事例 WG で作成したデータベースを今後どのように利用していくのが明確ではないため, イメージが湧かないというご意見があった
 - リスクコミュニケーションの部分を重要視するのであれば, 契約・法律・保険の各 WG の切り口を統一化させることが必要となる。そのため, 他 WG の方からご意見を伺い, その結果をもとに改善して, 利用可能な DB とする。
- ・ 日下部委員長から, 収集した文献が 100 件超えた段階で, state-of-the-art レポートを書くという目標でやったらどうかと提案された。学会・委員会として学問のトレンドを明確にすることは, 今後目標にしている講座を見据えても必要であり, 学会・委員会として求められていること。
- ・ 例えば, 地盤沈下・不同沈下のように何かの判例事例を対象として, 判例・文献・保険がどのようにリンクしどのようにリスクコミュニケーションをするのかを一本線を通して全体を見てみたらどうか?
 - ➔ 今からそれをやるのはなかなか難しい。各 WG としての意見が集約できた段階になってから進めたほうが良い。
- ・ 次回までに各 WG と議論して, データベースのシートを確定する。

【法律関係事例 WG】

- ・ 小嶋委員より現状の説明
- ・ 11 月にキーワードに対応する判例データベースを、各分担者に振り分け、地盤リスクに該当するものなのかを抽出する作業を行なっており、各担当者レベルでは、既に終わっているものと思われる。
- ・ 大久保幹事よりフォーマットの雛形は送られてきているが、決定していない。
- ・ 正垣委員より判例事例として、調査・設計・施工で何が悪かったのか具体的な内容は記載されているのか？との質問があった。
→出ているが、細かい資料までは添付されていない。裁判所の見解は書かれている。
- ・ 文献 WG のデータベースに「リスクの内容」として“調査・設計・施工”を入れれば、法律関係 WG とリンクできるのではないかと？

【契約に関する事例研究 WG】

- ・ GBR についてそれが実施されているシンガポールの事例を含めて地盤工学会誌「技術手帳」に投稿した。
- ・ 委員会の名前をどこかに入れてもらいたい。

【保険関係事例 WG】

- ・ 蔵田委員のところに日下部委員長と伊藤幹事がお邪魔して、お願いしてくる。

次回委員会までに WG としての活動方針が見えるようにして欲しい。

4) 44 回地盤工学研究発表会の DS の件 (DS-11)

- ・ 「報告書をどのような形にするのか」、「委員会として提出する論文は何本にするか？」等を議論した。
- ・ 各 WG から 1 本ずつお願いしたい
法律 WG : 大久保幹事・石井委員にその旨連絡する。
契約 WG : 全地連の HP に載っているものも含めて頂くと分かりやすいのでは？
- ・ 報告書は、geo-kanto08 にて使用したもの+αでどうか？
- ・ 申し込み手続きは、委員会一括で出来るように伊藤が交渉しておく
- ・ 日下部委員長は、学長命令により中国に 1 ヶ月出張している。座長を別の方をお願いする必要がある。

5) 次回委員会の予定 (第 6 回目以降の日程)

第 7 回 : 平成 21 年 4 月 7 日 14:00-17:00

第 8 回 : 平成 21 年 6 月 2 日 14:00-17:00

6) その他・連絡事項

- ・ IS-Gifu で情報収集するために誰が行ったほうが良いのではないかと？
- ・ コロナ社から土木の学部教育のための 30 冊くらいのシリーズの編集作業が開始され、その中にリスクマネジメントも入ってきた。事業リスクや地盤リスクなどについて大津先生の名前が出てきている。
- ・ 岸田オブザーバーより関東支部の状況を説明があった。学会の財政状況が厳しくなっており、関東支部への給付金も減っているが、研究委員会 G への予算は増やし、力を入れている。研究委員会 G リーダーの塚本先生が覚書を作り、委員会活動は 3 年間行い、その後広報・発信の機会を 2 年間実施できるようにした。ただし、収支ゼロ以上とすることが条件となる。

2. 話題提供

1) 話題提供：日本の公共工事調達方式と地質リスクマネジメント（渡邊法美先生（高知工科大学））

✓ 公共工事入札・契約方式の変遷

- ・ 戦前の土建請負は土建業者の能力不確実性のため「片務契約」的。権力支配関係があるが、現場では人情関係もある良い関係だった。
- ・ 戦後の談合・官製談合実施は、行政の完璧性制約、業界構造や経営に起因する不確実性を網羅する意味では“安心システム”だった。
- ・ この安心システムは、資金が潤沢であり多くの「標準的な」企業によって大量建設が要請されていた場合は有効であった
- ・ 近年のシステムは、逼迫予算で不安システムとなっており、戦前に回帰しているのでは？
- ・ 最低限の仕様を満たす最低価格入札者を選ぶ競争入札方式は問題多し
- ・ Prof. Kashiwagi（アリゾナ州立大）の PIPS (Performance Info. Procurement Sys.) は、「古き良き」責任施工であり、総合評価方式の方向性と類似。日本は大きく間違っていない

✓ 地質リスクマネジメントの方向性

- ・ 旧来の地質リスクマネジメントの特徴
 - 技術者の期待（リターン）が充足されにくい
 - 隠れた不安（リスク）が一杯
 - 今後は旧来の不安解消方法（指名・受注調整）が機能しにくい
- ・ プロセスマネジメント
 - 悲観的リスクからスタートし、リスクを下げっていくことによってコストを抑えることが出来る。
- ・ 地質の技術顧問
- ・ データ収集様式の提案

3. 配布資料

- 資料6-1. 議事次第
- 資料6-2. 前回議事録（案）
- 資料6-3. WG 一覧表
- 資料6-4. 地盤リスクの事例調査 WG データベース案
- 資料6-5. 地盤リスクの事例調査 WG 第一回 WG 議事メモ
- 資料6-6. 岩崎委員 地盤工学会誌原稿「GBR について」
- 資料6-7. 渡邊法美先生 話題提供資料
- 資料6-8. 渡邊法美先生 土木学会論文集 F

以上